

学校運営協議会の運営を応援します

～人と人とのつながりづくり・地域づくりを進めます～

令和7年12月22日（月）、『ずばり、疑問・質問・不安・心配・確かめたい点について思うこと』というテーマで、第2回学校運営協議会ファシリテーター応援講座を行いました。

当日は、一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事の 廣瀬 隆人先生 を講師にお迎えし、参加者の疑問や質問等に対し、“ずばり！”ご助言をいただきました。



▲教員側の研修のようす



▲地域側の研修のようす



▲全体研修のようす



～学校運営協議会 & 地域学校協働活動 Q & A～(教:教員側、地:地域側)

Q1. 委員の選出に苦勞しています。どのような人にお声かけすればよいでしょう(教・地)

- ・委員の選出はできたら一人ではなく、複数の信頼できる方に相談するとよい。例えばPTAの元役員さんなど、地域に詳しい人に日頃から相談しておきましょう。
- ・学校によく来てくれる方で、汗を流してくれる方をお願いできるとよいですね。

Q2. 学校運営協議会の委員間に温度差があります。どうしたらよいでしょう(教・地)

- ・委員間の温度差はあって当たり前であるため、無理に埋めようとはせず、温度差を受け入れましょう。もし埋めるために何かやるとしたら、簡単で効果的な共同作業を行ってはどうでしょうか。一緒に楽しく汗を流す体験が、協働意識を形成します。

Q3. 管理職と先生方の間に、温度差を感じています。どうしたらよいでしょう(教・地)

- ・学校運営協議会に参加する機会がない先生がよくわからないのは、当たり前です。全教職員に配付した、冊子『学校を核とした地域づくりははじめの一步』の読み合わせをすることで、先生と委員が懇談する機会を、年1回程度は設けるなどできるとよいです。よい関係づくりをすることが、とにかく大切です。全員でなくても、2～3名でも固有名詞で呼び合える仲になるとよいですね。

Q4. 管理職の異動により今までやってきたことが変更にならないか心配です(教・地)

- ・異動してきた管理職も新しい学校生活や地域の方との関係づくりに、緊張・不安の毎日でしょう。蓄積した今までの実績を、丁寧に伝える機会を設け、よりよい関係を作っていくしましょう。

Q5. 地域のまちづくり協議会と内容がかぶることがあります(教・地)

- ・かぶるのはとてもよいことです。むしろすごいことです。内容がかぶるのであれば、一緒にやればよいのではないのでしょうか。合同でやる、共催する、協力する、参加するなど多様な形があります。主催にこだわる必要はありません。

Q6. 先生方ともっとじっくり話をしたいと思っています(地)

- ・これはとてもいい提案だと思います。既に委員と先生方で、話し合っているところはあります。毎回でなくていいので、年1回程度は、委員さんと先生方が話をする機会を設けてはどうでしょうか。懇談会、茶話会という形で良いと思います。

Q7. 土日に地域学校協働活動を行う際、先生方の参加をお願いすることはできるでしょうか(地)

- ・土日の地域学校協働活動が、学校や学年等の行事・活動でない場合は、参加を強要することはできません。が、活動内容を先生方に知らせた上で、「ご家族で見に来ませんか」とか、「関心があればどうですか」などの声かけはできますね。基本的に土日は、地域の協議会委員主導で、展開する方が良いと思います。

Q8. うちの協議会は、学校と地域の連携・協働についての話し合いが中心です。学校運営の基本方針や教職員の任用について、もっと話し合わなくてよいのでしょうか(地)

- ・学校教育目標の実現、これが最終の着地点です。年度の最後に、「こんな子どもになって欲しい」という話をし、それを学校運営方針につなげてはどうでしょうか。既に、大沢小では、育てたい子ども像を協議会で話し合い、それが学校経営方針に活かされているそうです。
- ・教職員の任用については、勘違いをしないでください。誰かをやめさせて欲しいという話ではありません。例えば、産休や育休の先生の代わりがないことがある時に、何とか力添えをしてもらえないのかなど意見することです。どうやって、学校を盛り立てていくかのための話し合いであることを理解してください。

Q9. 地域がやりたいと思うことを学校でやることは難しいのでしょうか(地)

- ・まずは、よく話し合うことが大切です。学校には、学校行事をこれ以上増やすことができない事情がある場合もあります。内容によっては「できない」こともあります。そのことはしっかり受け止めましょう。そもそもやることは「目的」ではなく「手段」です。学校も地域もお互いがハッピーになれるようにしていきましょう。
- ・行事は増やさず、今ある学校行事と一緒にやるという方法もひとつです。
- ・学校には場所だけ貸してもらい、土日にやるという方法もひとつです。

Q10. 学校運営協議会で話し合ったことを、全ての先生に知って欲しい(地)

- 学校運営協議会の議事録を、教頭先生が委員と教員へマチコミで送っている協議会があります。その他、地域コーディネーターや教頭先生が、『学校運営協議会だより』を作成し、先生方に紹介している例もあります。打ち合わせや職員会議等で報告することもできますね。

Q11. 若い世代の協議会委員をどう育成したらよいでしょうか(地)

- 委員に卒業生である高校生や大学生を選出するとか、市役所や農協などに勤めている地元の若手職員を委員に選出するという考え方があります。なお、高校生や大学生を委員とする場合は、開催する時間をよく考えるなど、参加できる環境を整える必要があります。

Q12. 学校運営協議会の今後は、何を指していけばいいのでしょうか(地)

- 「よい地域にはよい学校がある」という考え方のもと、「地域のつながりをどうするか」、「地域の人が何をしたらいいのかなどについて考えます。
- 学校運営の改善や子どもたちの健全育成についても考えることができます。学力の問題についてもとりあげることはできます。

Q13. 地域学校協働活動がその場限りの活動になってしまうのではないかと心配しています(教)

- その場限りの活動でいいのではないのでしょうか。良いことだから毎年やろう、良いことから、年間計画に位置付けてということも必要ですが、一生に一度の体験でも記憶に残ることはあります。

Q14. 協議会の回数が少ないように思っています(教)

- 協議会の回数は、学校や地域によっていろいろあってよいものです。
- ある協議会は、話し合いは年4回ですが、今年度は活動のための「実行委員会」を立ち上げ、活動を実施しました。「少ない」と思っていることや、そのためにどうしたらよいかなど、協議会で話し合い進めていきましょう。自分たちで考えてみましょう。教育委員会では回数制限はしていません。

Q15. 学校運営協議会を欠席する委員が多いように感じています(教)

- 来られない方には電話をし、「出席は難しいでしょうか」等と聞いたり、子どもに案内状を書いてもらったりしてはどうでしょうか。欠席が多い方は、そもそも来られない、なんらかの事情を持っているかもしれません。その辺をよく確認しましょう。
- 「給食を食べる、音楽会に参加する」などの楽しいことを入れるのもひとつです。それでも出席が難しい場合には、関係委員とよく話し合いましょう。

Q16. 中学校区での小中連携の活動に難しさを感じています(教)

- 小中での連携については、「連携」することは「目的」ではありません。「連携」は手段、道具です。まずは、つながりづくりを意識した「話し合い」、懇談の場づくりを大切にし、結果「連携」が必要だったら、連携する方向で進めましょう。

Q17. 委員さんの学校経営への参画意識を高めるためにはどうしたらよいでしょう(教)

- ・参画意識を高めるためには、5年から10年はかかります。すぐにできるものではないので、長い目で見ましょう。少しずつ変化し、少しずつ高まっていくものです。

Q18. 学校の統廃合がある場合、どのようなことを意識するとよいでしょう(教)

- ・小さい学校の子どもたちは、大きな学校へ行くことに不安を抱えています。保護者も同様です。その気持ちに寄り添うことが大切です。小来川小中学校学校運営協議会では、統廃合が決まってから、「地域の未来をどうするか会議」、「小来川のどんなものを子どもたちに残すか会議」などを実施していました。

Q19. 地域の過疎・高齢化、極小規模 PTA 世帯数の減少により、次年度何ができるかなと考えています(教)

- ・何をやっていくかは大切ですが、同時に何をやめていくかも大切になっていきます。1+1=太い1にすることをみんなで考えましょう。

Q20. 学校評価をする上で、どのようなことに留意すればよいでしょう(教)

- ・学校評価の目的は、次年度の目標を定めるとともに、次年度も先生たち、子どもたち、保護者、協議会委員が、意欲と元気を出して頑張れるように行うものです。ダメなところやできなかったことばかりを指摘しても、誰も幸せになりません。学校評価をすることは、実は、地域評価、親評価につながる事なのです。幸せになるための方法を考える事なのです。だから、認める、励ます、元気にすることを第一に考えましょう。



～参加者のふりかえりより～起案

- ・廣瀬先生からいろいろな疑問に対する回答をいただき、すっきりしました。灯りが見えました。
- ・皆さんが悩みながらも前に進んでいることを知り、「頑張ろう!」という気持ちを持てました。これからやりたいことが見えてきました。
- ・今後、委員と先生方の話し合いやレクリエーションをやって仲良くなりたいです。
- ・「よい地域にはよい学校がある!」、これを心にとめ、楽しく活動したいです。

発行：日光市教育委員会事務局生涯学習課 ☎ (21) 5182
担当：湯澤・阿部 FAX (21) 5185